

12/27『教会の益となるために』（Iコリント12：4～7）

長谷川望牧師

- \*2015年も一年を通して神は私たち個人に、そして教会に多くの恵みを与えられた。感謝したい。個人的には悲しいことや苦しいことがあった方もおられると思うが、「神がすべてのことを働かせて益としてくださる」こと、また、神は最善しかなさらないことを信じれば、いつかすべてが恵みに変わる。
- \*恵みとは神から私たちに一方的に与えられるものである。私たちは受けることに慣れすぎて鈍感になっていないだろうか。どれだけ多くの恵みを得ているかを思い、感謝したい。同時に、今年私たちの方から差し出したか、与えることができたかどうかとも考えてみたい。  
「さて、賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。  
奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。  
働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。しかし、みな<sup>の</sup>益となるために、おのおのに御霊の現れが与えられているのです。」（Iコリント12：4～7）  
私たちには神から賜物が与えられている。肉体や精神、それらを用いて作り上げた資質や能力。この賜物は人によって違うが、同じ神からいただいているものである。その賜物を用いて私たちは奉仕をする。教会への奉仕はもちろん、人への奉仕もすべて神への奉仕になる。自分自身のためではない。奉仕がすべて神への奉仕になるなら神が望んでおられる働きの一端を担うことになる。「みな<sup>の</sup>益」とは教会の益であり、教会とつながっている家族であり、この地域であり、全世界である。
- \*自分に与えられている賜物は何かを知り、活かして用いることによって神と人のために働くことができれば、本当の意味で神の恵みの大きさを知ることができる。